

平成 19 年度 第 3 回外部評価委員会報告書

評 価 日	平成 20 年 3 月 19 日 (火)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況 (チューター制度について)</p> <p>チューター制度はすばらしい取り組みである。親が子離れをしておらず、大学のゼミにさえ機会があれば親が参加する例もある。子供同士で鍛えあう場所が少なくなっている今日期待される取り組みである。</p> <p>上級生のチューター自身の資質向上にもつながると思うので評価している。</p> <p>(規律ある生活について)</p> <p>放っておいてもだめだが、一定の距離を置いて見守ることが親にとって大切だと思う。親が学ぶことが大切である。</p> <p>全校遅刻 0 の日が 3 日というのは、実はすごいことかもしれないと思う。</p> <p>最近の子どもは耐性がない。「耐性」を育てることが大切だと思うが、厳しくできる親が少なくなった。特に家庭内における父親の威厳は失われているのが実態である。</p> <p>月曜日の欠席が多いとあるが、会社でも同じ傾向である。また、その理由も「体調不良」である。高校の段階でこの部分の改善は社会適応のためにも重要である。</p> <p>(大学訪問について)</p> <p>実際に訪問してみてどうだったのか。感想を聞かせて欲しい。生徒に対する「還元」も考えてあるようだが、具体的にはどういうことか。</p> <p>(学校文化度について)</p> <p>学校文化度という言葉が気に入っている。学校文化度は学校によって様々であり、どのレベルを目指すかは学校によって異なる</p>	<p>今年度のチューター制度の分析・反省結果を踏まえ、改善点を加えて、すでに来年度に向けてのチューター制度をスタートしている。</p> <p>全校遅刻 0 が年間 10 日程度を期待している。来年度も一層取り組んで行きたい。</p> <p>実際に出かけてみて、大学側の誠実な対応に感謝すると同時に、実態・現状が理解でき、単なるランキング表だけではわからないことを知ることができた。生徒に対して話す場合に説得力が増すと感じている。</p> <p>教員に対しての報告会はすでに行ったが、生徒に対しての報告会を明後日に予定している。</p> <p>来年度創立 100 周年を迎える本校にふさわしい『文化度』を意識しな</p>	

と思っている。倉吉東高は高いレベルの学校文化度を目指しているように感じており、それは望ましいことであると思う。継続を願う。

(文武両道について)

部活動は大切である。挫折体験も大切である。

(開かれた学校づくりについて)

学校がマスコミにたたかれる時代であり、教員が強く出られない状況にあるように思う。しかし、倉吉東高の先生方は正しい理念の下、倉吉東高教育のあるべき姿を論理的に説明できるだけの力を持っておられると感じているので、言うべきことは自信を持って言うてくださることを望む。

(定時制教育について)

先日定時制で講演する機会をいただいたが、生徒たちは非常に熱心に、メモを取りながら聞いていた。そこにいたまでの生徒と教員の努力を評価したい。特に先生方の妥協しない姿勢が成功しているように思う。

(専攻科教育について)

専攻科存廃関係の状況を知りたい。

専攻科生の取り組み状況や専攻科教育の現状・成果を聞いて、存続すべきだという意をさらに強く持った。我々にできることがあれば言ってほしい。できる限りのことはやるつもりである。

がら継続的に努力を続ける。

文武両道は本校の譲れない方向性である。

マスコミ取材はすでに「売れるストーリー」ありきであり、公表されたときにはこちらの意図した発言とは異なる文脈で用いられていることも多い。本校教育の理念に自信を持って、ぶれることなく本校教育を実践していきたい。

講演会ではお世話になり感謝している。今後も支援をお願いしたい。

資料は、前期日程合格者数と主な私立大学合格者数であるが、倉吉東高出身以外の生徒も成果を挙げた。

「中部地区のための専攻科」としての存在意義を証明している。

倉吉東高以外からの出身生徒は、倉吉東高生の取り組み姿勢や専攻科教育に大変驚くと同時に、刺激を受けたと話している。また、現役・専攻科合同課外授業においては、専攻科生の真摯な取り組みに現役生が大変な刺激を受けている。

専攻科修了式にて、生徒代表が、自ら「県民の皆さんに感謝したい」という言葉を述べていることが倉吉

<p>(学校評価アンケート結果について)</p> <p>生徒アンケートの数字に関して、概ね肯定的な意見であると思うが、例えば、「教員が信頼できるか」という問いに対しての、「あまりできない・できない」の数字をどう見るか。少ないからといって必ずしも無視できないのではないか。</p> <p>また、記述されている意見にかなり辛らつなものもあるがどう思うか。</p> <p>厳しい意見、辛らつな意見は、生徒の教員に対する期待感や信頼感の裏返しだとも取れる。そのように批判や非難をしてみても、結局は教員に頼っているのが実態ではないか。</p> <p>(2) 説明・公表について</p> <p>育友会ブログに比較すると物足りなさは否めない。中間評価においては、学校 HP の更新頻度も県内高校ではトップであったが、その後の学校 HP の更新頻度、内容にやや乏しさを感じる。学校側からの発信を内容も含め、もっと積極的にスピーディーに行うのが望ましい。</p> <p>2. 学校運営への提言</p> <p>(学校自己評価表について)</p> <p>目指す姿と現状を比較し、足りない部分を認識し、それを補う具体的な方策を考え、実行するというこのやり方は、すべての基本であると思う。この自己評価表を生徒や家庭に配付して見てはどうか。また、自分自身の目標・達成を目指すとき、この自己評価表の考え方を利用させてみたらどうか。</p> <p>(中学生特別講座について)</p> <p>中学教育の問題点は、中学生講座受講者の感想を見れば明らかである。実際、中部地区中学生の数学の学力レベルは低くないと</p>	<p>東高专攻科教育レベルを示している。</p> <p>後期試験開始日に前期合格者有志が集合し、専攻科棟の清掃を1日かけて実施していた。誰に言われたわけでもなく自発的なものであったと聞いている。期日も、前期に失敗し後期に向けて勉強する同僚の邪魔にならないよう考えて設定したと聞いている。(以上、専攻科教育に関して)</p> <p>記述コメントはすべて書き出した。確かに辛らつな記述もあるが、それがいくつもあるわけではない。しかし、問題があると感じたコメントについてはそのつど対応を考えている。また、数字のとらえ方について、今後そのような見方で数字を分析したい。</p> <p>中学生向けのページ作成なども含め、充実したHPになるよう、担当分掌・委員会等の整備を進めている。来年度は、内容も更新頻度も高いものにしたい。</p> <p>自己評価表はすでにHP上で公開されているが、生徒・家庭配付についても来年度実施に向けて検討する。</p> <p>中間評価の場でも報告したように、来年度も、数学・英語のセット</p>
--	--

思っているが、それは小・中・高の数学教育の連携がうまくいっているからだと思う。英語力の低さについては、中学でも感じる場所があり、中学の教員も危機感を持っている。教材の精選、与え方の工夫など、改善に取り組んでいる。

この中学生講座に中学の教員を引き入れるかどうかという問題より、中学と高校の英語教員の連携を中部地区という大きな視点で考えるべきではないか。

で実施したいと考えている。参加中学生の事後アンケートを参考にしながらより充実したものになりたい。

中学校の先生方にも是非参加していただけるような方策を考えたい。

中・高の英語教員による研究会立ち上げは今後の課題としたい。